

科目名	資格講座(農業簿記)	担当教員	児島記代			実務経験のある 教員等による 授業科目
	アグリビジネス科 園芸組合、畜産コース(選択)	配当年度	2年	前期	時間(単位)数	30(2)
科目区分	基礎分野	資格試験	関連資格等		農業簿記検定3級・2級	
授業のキーワード	簿記一巡の手続き・損益計算書・貸借対照表・資産・負債・純資産・費用・収益・取引の二重性・貸借平均の原理・試算表・精算表・原価計算・原価・材料費・労務費・経費・継続記録法・棚卸計算法・先入先出法・移動平均法・部門別計算・製品別計算・個別原価計算・総合原価計算・標準原価計算・直接原価計算					
授業概要 (目的・ねらい)	税理士資格を持ち、税理士事務所の経営および実務経験のある教員がその実務経験をいかし、当講座は農業簿記検定3級、2級に合格することを目標としています。					
学生が達成すべき目標 (行動目標)	3級 ①個別問題が解けるようになる。 ②試算表問題が解けるようになる。 ③精算表問題が解けるようになる。 2級 ④原価計算問題が解けるようになる。					
ディプロマポリシーと本科目の関連	(1)食物の生産から消費まで、実践的な理論を理解し、技術を身につけている。 (3)発展し続けてゆく農と食の融合的高度化に積極的に寄与できる。					
授業計画						
回	テーマ	授業内容				
1	論点整理・解説①	3級、2級ともに検定試験で頻出の論点について整理・解説を行います。				
2	論点整理・解説②	3級、2級ともに検定試験で頻出の論点について整理・解説を行います。				
3	論点整理・解説③	3級、2級ともに検定試験で頻出の論点について整理・解説を行います。				
4	論点整理・解説④	3級、2級ともに検定試験で頻出の論点について整理・解説を行います。				
5	論点整理・解説⑤	3級、2級ともに検定試験で頻出の論点について整理・解説を行います。				
6	個別問題演習①	3級、2級ともに個別問題演習・解説を行います。				
7	個別問題演習②	3級、2級ともに個別問題演習・解説を行います。				
8	個別問題演習③	3級、2級ともに個別問題演習・解説を行います。				
9	総合問題演習①	3級、2級ともに総合問題演習・解説を行います。				
10	総合問題演習②	3級、2級ともに総合問題演習・解説を行います。				
11	総合問題演習③	3級、2級ともに総合問題演習・解説を行います。				
12	過去問演習①	3級、2級ともに過去問演習を行います。				
13	解説	過去問演習①の解説を行います。				
14	過去問演習②	3級、2級ともに過去問演習を行います。				
15	解説	過去問演習②の解説を行います。				
授業準備(予習・復習)の具体的な内容及び、それに必要な時間	【予習】 当講座は問題演習に多く取り組みます。そのため、基本的事項はテキストをしっかりと読み、確認してから受講しましょう。 【復習】 講義中に取り組んだ練習問題や検定試験の過去問を解きなおきましょう。間違えた問題があった場合はテキストで解き方を確認してください。それでもわからない場合は講師に質問しましょう。					
成績評価	方法	<input type="checkbox"/> 定期試験(%) <input type="checkbox"/> 実技試験(%) <input type="checkbox"/> 実習・演習評価(%) <input type="checkbox"/> 小テスト(%) <input type="checkbox"/> 平常点(%) <input type="checkbox"/> レポート(%) <input type="checkbox"/> その他(%)				
	基準・備考	学生便覧 学則、成績考査規程に準拠して評価する。一読すること。				
使用教材	教科書	『農業簿記検定 教科書3級』『農業簿記検定 教科書2級』一般社団法人全国農業経営コンサルタント協会 学校法人大原学園大原簿記学校、大原出版				
	参考書等	『農業簿記検定 問題集3級』『農業簿記検定 問題集2級』一般社団法人全国農業経営コンサルタント協会 学校法人大原学園大原簿記学校、大原出版				
教員からのアドバイス・備考	講義では論点別に試験対策を行います。前半は講師による論点解説、後半は過去問演習の時間を多くとります。電卓を必ずお持ちください。					

科目名	農業簿記演習		担当教員	児島記代		実務経験のある 教員等による 授業科目
対象科・コース	アグリビジネス科園芸・組合、畜産コース		配当年度	1年	後期	時間(単位)数 60(2)
科目区分	専門分野	農業経営	関連資格等	農業簿記検定		
授業のキーワード	複式簿記・いきものを通じた経営・一定期間の経営成績・一定時点の財政状態・資産・負債・純資産・費用・収益・損益計算書・貸借対照表・簿記一巡の手続き・取引・仕訳・転記・取引の二重性・貸借平均の原理・仕訳帳・総勘定元帳・試算表・勘定科目・販売基準・収穫基準・発生主義・棚卸資産・製品・仕掛品・原材料・有形固定資産・減価償却資産・育成仮勘定・取得価額・資本的支出・決算・決算整理仕訳・貸倒引当金・減価償却費・経過勘定・精算表					
授業概要 (目的・ねらい)	税理士資格を持ち、税理士事務所の経営および実務経験のある教員がその実務経験をいかし、講義では従来の農業は家業としての農業が主流でしたが、近年は農業を経営として取り組む若い農業者も増えています。簿記記帳も税務申告のためにあるのではなく、記帳で得られる情報を経営判断に活用することが大切です。当該演習においては、複式簿記のルールと簿記一巡の手続きを学習し、簿記・会計の基本を理解することを目的とします。その上で、パソコン簿記演習において実際の農家に近いケースを用いて理解を深めます。					
学生が達成すべき目標 (行動目標)	1. 複式簿記とは何か説明できる。 2. 農業経営を会計的視点で捉えることができる。 3. 農業簿記の目的を説明できる。 4. 簿記一巡の手続きを説明できる。 5. 取引を仕訳・転記できる。 6. 損益計算書・貸借対照表を作成できる。					
ディプロマポリシーと本科目の関連	(1)食物の生産から消費まで、実践的な理論を理解し、技術を身につけている。 (3)発展し続けてゆく農と食の融合的高度化に積極的に寄与できる。					
授業計画						
回	テーマ	授業内容				
1	農業簿記の概要	①簿記とは ②農業とは(会計的視点) ③農業簿記の目的 ④経営成績 ⑤財政状態				
2	簿記一巡の手続き	①取引とは ②仕訳と転記 ③主要簿と補助簿 ④試算表の作成				
3	農業簿記の勘定科目、電卓演習	①農業簿記の勘定科目 ②農業経営と勘定科目 ③電卓演習				
4	収益の記帳方法	①販売基準と収穫基準 ②発生主義 ③収益に関する会計処理(売上取引、売上引、作業受託収入、補助金などの収入、家事消費取引)				
5	費用の記帳方法、問題演習	①費用に関する会計処理(仕入取引、賃金の支払い、10万円未満の農機具の購入、修繕費の支払い、借入金による利息の支払い) ②問題演習と解説				
6	流動資産①	①現金 ②現金過不足 ③小口現金 ④普通預金 ⑤売掛金 ⑥棚卸資産(農産物、仕掛品、原材料、貯蔵品)				
7	流動資産②、流動負債	①その他の流動資産(未収入金、前渡金、貸付金、立替金、仮払金) ②流動負債(買掛金、未払金、短期借入金、前受金、仮受金、預り金) ③固定負債 ④資本金				
8	固定資産	①減価償却資産 ②育成仮勘定 ③修繕費と資本的支出 ④有形固定資産の売却(生物以外の売却、生物の売却)				
9	決算書の作成①	①決算とは ②決算整理前試算表の作成 ③決算整理仕訳 ④決算整理後試算表				
10	決算書の作成②	①精算表の作成 ②精算表の問題演習				
11	問題演習	問題演習と解説				
12	検定試験過去問演習	農業簿記検定3級の過去問演習と解説				
13	伝票会計、パソコン簿記演習①	①伝票会計 ②パソコン簿記の基本				
14	パソコン簿記演習②	データ入力演習				
15	パソコン簿記演習③	決算整理の方法				
授業準備(予習・復習)の具体的な内容及び、それに必要な時間	【予習】 シラバスで該当回の内容を確認し、テキストを読みましょう。一読して分からない箇所にはマークして講義に出席してください。講義後、理解に不足がある場合には講師に質問してください。 【復習】 授業で解いた問題集を解きなおしてみましょう。不正解の問題があった場合には、テキストの該当箇所を読みましょう。復習しても分からないところは講師に質問してください。					
成績評価	方法	■ 定期試験(60%) □ 実技試験(%) □ 実習・演習評価(%) □ 小テスト(20%) ■ 平常点(10%) ■ レポート(10%) □ その他(%)				
	基準・備考	学生便覧 学則、成績考査規程に準拠して評価する。一読すること。				
使用教材	教科書	『農業簿記検定 教科書3級』一般社団法人 全国農業経営コンサルタント協会・学校法人 大原学園大原簿記学校、大原出版				
	参考書等	『農業簿記検定 問題集3級』一般社団法人 全国農業経営コンサルタント協会・学校法人 大原学園大原簿記学校、大原出版				
教員からのアドバイス・備考	簿記学習が初めての方にも分かりやすく解説する講義を心掛けていますが、2コマ連続の講義となるため欠席すると理解が深まらなくなってしまいます。やむを得ず欠席した場合には友人・講師のサポートを受けましょう。また、当該演習は電卓必携です。					

科目名	農業経営1(講義)		担当教員	児島記代他		実務経験のある 教員等による 授業科目
対象科・コース	アグリビジネス科園芸組合、畜産コース		配当年度	1年	前期	時間(単位)数 30(2)
科目区分	専門分野	農業経営	関連資格等	農業簿記検定		
授業のキーワード	財務会計・管理会計・簿記一巡の手続き・財務諸表・損益計算書・貸借対照表・売上高・売上原価・販売費及び一般管理費・営業外収益・営業外費用・特別利益・特別損失・繰延資産・資本金・資本剰余金・利益剰余金・原価計算・原価・製造原価・材料費・労務費・経費・個別原価計算・総合原価計算・グループワーク					
授業概要 (目的・ねらい)	税理士資格を持ち、税理士事務所の経営および実務経験のある教員がその実務経験をいかし、当講義では、財務会計と管理会計についていくつかの論点を取り上げます。財務会計においては簿記一巡の手続きを確認したのち、財務諸表の仕組みについて学習します。管理会計においては特に原価計算の基礎を理解することを目的とします。管理会計は「経営者のための会計」とも呼ばれ、経営者が行う重要な意思決定に用いられます。実際の事例を交えた講義を行うことにより学生の皆さんに「経営者のための会計」を意識してもらうことが講義のねらいです。					
学生が達成すべき目標 (行動目標)	1. 財務会計と管理会計の性質を説明できる。 2. 財務会計の基礎を理解できる。 3. 管理会計の基礎を理解できる。 4. 原価計算の基礎を理解できる。 5. グループワークに積極的に参加できる。					
ディプロマポリシーと本科目の関連	(1)食物の生産から消費まで、実践的な理論を理解し、技術を身につけている。 (2)幅広い視野を持ち、国内外の多くの人々と協力して問題を解決できる。 (3)発展し続けてゆく農と食の融合的高度化に積極的に寄与できる。					
授業計画						
回	テーマ	授業内容				
1	財務会計と管理会計	①財務会計とは ②管理会計とは				
2	簿記一巡の手続き	①簿記一巡の手続き				
3	財務会計の基礎	①会計の意義と役割 ②企業会計制度 ③会計公準 ④一般原則				
4	財務諸表	①貸借対照表 ②損益計算書				
5	損益会計論	①期間利益の計算方法 ②現金主義会計と発生主義会計 ③収益の計上基準				
6	資産会計論	①資産の評価				
7	問題演習	問題演習と解説				
8	管理会計の基礎	①短期利益計画の基礎 ②CVP分析 ③原価分解				
9	原価計算①	①原価とは ②製造原価の分類 ③原価計算の手順 ④個別原価計算				
10	原価計算②	①材料費会計				
11	原価計算③	①労務費会計 ②経費会計				
12	原価計算④	①総合原価計算				
13	問題演習	問題演習と解説				
14	グループワーク①	グループに分かれ、文献を輪読し、ワークシートに基づいてディスカッションを行います。最後にグループごとに発表をします。				
15	グループワーク②	グループに分かれ、文献を輪読し、ワークシートに基づいてディスカッションを行います。最後にグループごとに発表をします。				
授業準備(予習・復習)の具体的な内容及び、それに必要な時間	【予習】 1年生で学習した農業簿記がベースとなっている講義です。したがって、農業簿記のテキストを復習してから受講することが望ましいです。 【復習】 毎回の受講後にテキストや配賦プリントを読んで復習しましょう。練習問題がある場合には解きなおしめしましょう。分からないところは講師に質問してください。					
成績評価	方法	■ 定期試験(60%) □ 実技試験(%) □ 実習・演習評価(%) ■ 小テスト(20%) ■ 平常点(10%) □ レポート(10%) □ その他(%)				
	基準・備考	学生便覧 学則、成績考査規程に準拠して評価する。一読すること。				
使用教材	教科書	『農業簿記検定 教科書3級』『農業簿記検定 教科書2級』一般社団法人全国農業経営コンサルタント協会 学校法人大原学園大原簿記学校				
	参考書等	『農業簿記検定 問題集3級』『農業簿記検定 問題集2級』一般社団法人全国農業経営コンサルタント協会 学校法人大原学園大原簿記学校				
教員からのアドバイス・備考	当講義は簿記演習で学習した知識をベースとしています。簿記記帳で得られた経営情報をどう活用するかについて学びます。なお、電卓は必ずお持ちください。					

科目名	繁殖生理(講義)		担当教員	小島 敏之			実務経験のある教員等による授業科目
対象科・コース	アグリビジネス科畜産、国際農業コース		配当年度	1年	後期	時間(単位)数	30(2)
科目区分	専門分野	畜産	関連資格等	家畜人工授精師(牛)・家畜体内受精卵移植師(牛)			
授業のキーワード	春機発動、性成熟、繁殖供用開始の条件、発情徴候、スタンディング発情、発情持続時間、排卵、発情後出血、発情周期、視床下部・下垂体前葉・性腺軸、内分泌、ホルモン、GnRH(性腺刺激ホルモン放出ホルモン)、LH(黄体形成ホルモン)、FSH(卵巣刺激ホルモン)、エストロゲン、プロゲステロン、プロスタグランジンF2 α 、パルス状分泌、サージ状分泌、フィードバック、卵巣、卵胞、黄体、子宮、直腸検査による卵巣・子宮の触診、適期授精、排卵卵子の受精能保有時間、精子の授精能獲得と授精能保有時間、卵子と精子の成熟、受精の仕組み、胚の発育、妊娠成立、妊娠診断、母体の妊娠認識、リビートブリーダー(低受胎牛)、長期不受胎牛、繁殖管理と飼養管理・栄養管理との関係、妊娠率、受胎率、その他の繁殖管理指標						
授業概要(目的・ねらい)	獣医師資格を持ち、多くの畜産現場での診療、指導の経験を持つ教員が、その実務経験を講義にいかし、2年間の履修期間内に家畜人工授精師(牛)と家畜体内受精卵移植師(牛)の二つの資格が所得できる。そのため、履修すべき科目が家畜改良増殖法で定められている。繁殖生理は、履修すべき学科科目時間数66時間のうちの25時間を占める科目である。以上を踏まえて、両資格取得に必須の牛の繁殖学と生殖器の解剖に関する基礎知識を中心に学習を進め、両資格を实地に活かす技術と知恵を修得することを目的とする。						
学生が達成すべき目標(行動目標)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 牛の繁殖供用開始の条件を説明することができる。 2. 牛の発情を発見することができる。 3. その他の牛の繁殖に関する徴候をモニタリングすることができる。 4. 繁殖を制御する内分泌の機序を理解し、説明することができる。 5. 直腸検査による卵巣と子宮の触診技術を修得する前段階として、それらの解剖を理解することができる。 6. 牛の繁殖サイクルを理解し説明することができる。 7. 牛の繁殖管理の重要性を理解し繁殖管理指標を説明することができる。 						
ディプロマポリシーと本科目の関連	本校のカリキュラムポリシーのひとつである、「農と食の分野において必要な知識・技能を取得する」ために配置される専門科目に該当します。						
授業計画							
回	テーマ	授業内容					
1	繁殖生理を学習するに当たって	教員の自己紹介(所信表明を含む)、学生の自己紹介(卒業後の進路など)、その後、繁殖生理を学習する意味合いを説明します。					
2	春機発動、性成熟、繁殖供用開始時期	前回の講義内容のおさらいをします(以下、同様)。雌牛の性成熟に関する用語を学習します。					
3	牛の繁殖サイクル	繁殖供用開始時期を過ぎた雌牛(成雌牛)の受胎、分娩、発情再帰に至るサイクルを学習します。					
4	発情徴候	繁殖管理の中で最も重要な項目のひとつである発情の発見のために、成雌牛の発情の徴候について学習します。					
5	内分泌による繁殖機能制御(1)	哺乳動物に共通している内分泌系による繁殖機能制御の仕組みを動画を用いて学習します(理解する)。					
6	内分泌による繁殖機能制御(2)	哺乳動物に共通している内分泌系による繁殖機能制御の仕組みを動画を用いて学習します(動画に追従できる)。					
7	内分泌による繁殖機能制御(3)	哺乳動物に共通している内分泌系による繁殖機能制御の仕組みを動画を用いて学習します(動画を用いて説明できる)。					
8	雌牛の生殖器を用いた実習(1)	食肉処理場由来の雌牛の生殖器を用いて、解剖、卵巣触診による判別を学習します。					
9	雌牛の生殖器を用いた実習(2)	食肉処理場由来の雌牛の生殖器を用いて、子宮頸管を通す練習を行います。					
10	受精の仕組み	精子と卵子の間で起こる受精について学習します。					
11	胚の発育	受精成立後の胚の発育の様相を学習します。					
12	授精適期	受胎率を上げるための授精適期の考え方を学習します。					
13	受胎に至るまでの障害	受胎率を決定する要因について学習します。					
14	繁殖管理指標	繁殖管理上、必要な繁殖管理指標を学習します。					
15	繁殖管理と飼養管理・栄養管理	繁殖管理と飼養管理・栄養管理との関係性を学習します。					
授業準備(予習・復習)の具体的な内容	【予習】	シラバスに記載されている内容を事前に読んで、自分なりにどのような内容か想像しておくことで十分です。					
	【復習】	復習は授業で学んだ内容を自分の血肉とするためにとても重要です。授業中わかつたつもりでも、きちんと理解できていない事柄を整理して、次の授業で質問してください。どんなに簡単と思われる事柄でも構いません。多くの人も同じ疑問を持っています。そこから授業内容が深化していくことがあります。					
成績評価	方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験(80%) <input type="checkbox"/> 実技試験(%) <input type="checkbox"/> 実習・演習評価(%) <input type="checkbox"/> 小テスト(%) <input type="checkbox"/> 平常点(%) <input checked="" type="checkbox"/> レポート(欠席者に課します) <input checked="" type="checkbox"/> その他(20%):熱意、創意					
	基準・備考	学生便覧 学則、成績考査規程に準拠して評価します。目を通しておいてください。					
使用教材	教科書	家畜人工授精講習会テキスト(日本家畜人工授精師協会)					
	参考書等	ウシの科学(朝倉書店)、その他必要に応じて、講義時に資料を配布します。資料はファイルに綴じてください。					
教員からのアドバイス・備考	コミュニケーション(会話のキャッチボールなど)、学び合い、教え合い、および自他共栄をこの授業では追及します。授業は教員ひとりで作るものではなく、学生と教員の共同作業です。講義は座学が基本ですが、1~2回程度、グループ学習を行う予定です。そこでは、学生同士の学び合いと教え合いによって、クラス全員の知識レベルを上げることを目指します。一緒に楽しく授業を進めましょう。						

科目名	家畜人工授精論(講義)		担当教員	小島 敏之		実務経験のある 教員等による 授業科目	
対象科・コース	アグリビジネス科 畜産コース		配当年度	2年	前期	時間(単位)数	30(2)
科目区分	専門分野	畜産	関連資格等	家畜人工授精師(牛)・家畜体内受精卵移植師(牛)			
授業のキーワード	直腸検査、卵巢触診、発情発見、人工授精を実施する条件、授精適期、凍結保存精液の取り扱い、衛生的取り扱い、受精卵移植技術、供卵牛、過剰排卵誘起、非外科的受精卵採取、受精卵検索、受精卵培養、受精卵移植、受卵牛、受精卵凍結保存、人工授精と受精卵移植の使い分け、受胎率、受胎促進、流産防止、妊娠診断、早期胚死滅、受精障害、低受胎、分娩監視、分娩予知、分娩後の母牛と新生子の処置						
授業概要 (目的・ねらい)	獣医師資格を持ち、多くの畜産現場での診療、指導の経験を持つ教員が、その実務経験を講義にいかし、2年間の履修期間内に家畜人工授精師(牛)と家畜体内受精卵移植師(牛)の二つの資格が所得できる。そのため、履修すべき科目が家畜改良増殖法で定められている。繁殖生理は、履修すべき学科科目時間数66時間のうちの25時間を占める科目である。以上を踏まえて、両資格取得に必須の牛の繁殖学と生殖器の解剖に関する基礎知識を中心に学習を進め、両資格を実地に活かす技術と知恵を修得することを目的とする。						
学生が達成すべき目標 (行動目標)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 牛の発情を確実に発見して、それが人工授精を実施するに値するものと確実に判断できる。 2. 受胎率を上げるために、人工授精の適期を確実に判断できる。 3. 受胎率に関与するさまざまな要因を理解し説明することができる。 4. 直腸検査を実施し、除糞、直腸に進入した空気抜き、子宮頸管の把握が手際よくできる。 5. 注入器/拡張棒の先端を子宮外口にあてがうことができる。 6. 注入器/拡張棒を子宮頸管を通じて子宮体まで持っていくことができる。 7. 凍結保存精液の融解がトラブルなくできる。 8. 液体窒素タンクの維持管理がトラブルなくできる。 9. 分娩対応ができる。 						
ディプロマポリシーと本科目の関連	本校のカリキュラムポリシーのひとつである、「農と食の分野において必要な知識・技能を取得する」ために配置される専門科目に該当します。						
授業計画							
回	テーマ	授業内容					
1	家畜人工授精論を学習するに当たって	教員の所信表明、学生の現況聞き取り、その後、家畜人工授精論を学習する意味合いを説明します。受精卵移植技術も含まれます(他に該当する科目がないため)。					
2	人工授精と受精卵移植	前回の講義内容のおさらいをします(以下、同様)。人工授精と受精卵移植の意義を理解し、効率、使い分けについて学習します。					
3	受胎率を上げる	人工授精と受精卵移植について受胎率を上げる要因を学習します。					
4	内分泌による繁殖機能制御	1年次に学習した繁殖生理のうち、難解な箇所の復習をします。					
5	人工授精師と受精卵移植師の役割	人工授精師と受精卵移植師の業務内容について家畜改良増殖法に基づいて学習します。					
6	わが国の牛の繁殖関連の現状	わが国の牛の繁殖の現状を、統計資料に基づいて学習します。					
7	受精卵の凍結保存技術	受精卵の凍結保存技術の理論と基礎を学習します。					
8	受精卵移植技術(畜産バイテク室) 1	牛の受精卵移植技術に用いられる器具器材を理解し準備の方法を学習します。					
9	受精卵移植技術(畜産バイテク室) 2	牛の受精卵移植技術に用いられる器具器材を理解し準備の方法を学習します。					
10	不受胎の原因	不受胎を引き起こす原因を時系列で学習します。					
11	繁殖と経営	繁殖と畜産経営の関係を学習します。					
12	妊娠成立、妊娠診断、乾乳、分娩	特に乳牛における妊娠成立から分娩までの流れを学習します。					
13	受胎促進技術	現場で応用されている受胎促進技術を学習します。					
14	人工授精技術の周辺技術	性選別精子の利用について学習します。					
15	受精卵移植技術の周辺技術	性別別受精卵、受精卵分割による一卵性双子作出、核移植技術、ES細胞などを学習します。					
授業準備(予習・復習)の具体的な内容	【予習】	シラバスに記載されている内容を事前に読んで、自分なりにどのような内容か想像しておくことで十分です。					
	【復習】	復習は授業で学んだ内容を自分の血肉とするためにとても重要です。授業中わかつたつもりでも、きちんと理解できていない事柄を整理して、次の授業で質問してください。どんなに簡単と思われる事柄でも構いません。多くの人も同じ疑問を持っています。そこから授業内容が深化していくことがあります。					
成績評価	方法	<input checked="" type="checkbox"/> 定期試験(80%) <input type="checkbox"/> 実技試験(%) <input type="checkbox"/> 実習・演習評価(%) <input type="checkbox"/> 小テスト(%) <input type="checkbox"/> 平常点(%) <input checked="" type="checkbox"/> レポート(欠席者に課します) <input checked="" type="checkbox"/> その他(20%):熱意、創意					
	基準・備考	学生便覧 学則、成績考査規程に準拠して評価します。目を通しておいてください。					
使用教材	教科書	家畜人工授精講習会テキストおよび家畜体内受精卵移植講習会テキスト(ともに日本家畜人工授精師協会)					
	参考書等	ウシの科学(朝倉書店)、家畜胚の移植(養賢堂)、その他、必要に応じて資料を配布します。					
教員からのアドバイス・備考	コミュニケーション(会話のキャッチボールなど)、学び合い、教え合い、および自他共栄をこの授業では追及します。授業は教員ひとりで作るものではなく、学生と教員の共同作業です。講義は座学が基本ですが、1~2回程度、グループ学習を行う予定です。そこでは、学生同士の学び合いと教え合いによって、クラス全員の知識レベルを上げることが目指します。一緒に楽しく授業を進めましょう。1年次に履修した繁殖生理の内容を復習して、授業に臨んでください。						

科目名	農業生産・機械実習(実習)		担当教員	磯野 卓司		実務経験のある 教員等による 授業科目
対象科・コース	アグリビジネス科 畜産コース		配当年次	1年	前後期	時間(単位)数 180(4)
科目区分	専門分野	畜産実習	関連資格等	自動刈払機、小型車両建設機械、フォークリフトなど作業系		
授業のキーワード	畜産、酪農、肉牛、アニマルウェルフェア、経済動物、BCS、増体重、家畜糞尿、堆肥、牛群、泌乳/乾乳、粗飼料/濃厚飼料、分離給与/TMR給与、サイロ、反芻/単胃、放牧、ストール/フリーストール牛舎、発情兆候・回帰、直腸検査、AM・PM法、暑熱ストレス、疾病予防、疾病対策、繁殖障害、飼育計画、血統					
授業概要 (目的・ねらい)	酪農協に勤務し、多くの酪農家に指導経験のある教員が、その実務経験をいかし、専門科目で修得する知識を発展させる実習科目でもある。主に酪農業の各種作業の体験を通じて、酪農業の仕組み・技術についての基礎修得に必要な実習を行う。下記に挙げるテーマ他を天候・時期などにあわせ、家族型経営実習(鯉淵ゾーン)で行う。					
学生が達成すべき目標 (行動目標)	畜産業の概要を説明できる。 酪農業について実践できる。 安全に農作業を実践できる。 農業生産における課題の解決方法を考えることができる。 農業機械の操作ができる。					
ディプロマポリシーと本科目の関連	(1)食物の生産から消費まで、実践的な理論を理解し、技術を身につけている。 (2)幅広い視野を持ち、国内外の多くの人と協力して問題を解決できる。 (3)発展し続けてゆく農と食の融合的・高度化に積極的に寄与できる。					
授業計画						
回	テーマ	授業内容				
1	機械操作	農業機械(トラクタなど)の取扱いについて実習する。				
2	機械整備	機械油交換、日常メンテナンスなどについて実習する。				
3	観察と記録	牛の健康状態の把握のために必要な観察と記録の在り方について、実習を行う。				
4	家畜の取扱い	家畜との信頼関係構築が、家畜のストレス減少につながり、畜産物生産性向上につながることを学ぶ。				
5	除角・削蹄	他の牛を傷つけるリスク削減のための[除角]と、蹄の病気、変形や牛体への傷害リスク回避などから行う[削蹄]について学ぶ。				
6	搾乳	日に最低2回実施される搾乳のストレスを軽減した実施の在り方について学ぶ。また、搾った生乳の衛生的な管理手法についても学ぶ。				
7	発情兆候・発見	効率的な繁殖管理に必須である適切な発情兆候、人工授精、発情回帰の発見につながる観察手法について学ぶ				
8	分娩予知・分娩	より正確な分娩予定日・時刻の予知の手法や、実際に分娩に立ち会うことで、安全な出産や子牛ケアについて実習する。				
9	給餌・給水	全ての牛にとって必要な餌・水が確保のため、月齢、頭数に合わせた給餌・給水の在り方、観察ポイントについて学ぶ。				
10	牛体管理	健康状態など様々な要因で変化する牛体の情報収集方法について学ぶことで、異常などの早期発見につながる事を実習する。				
11	飼料管理	月齢などに合わせた飼料量・配合、また、牧草の生産・保管方法について実習する。				
12	堆肥管理	施設の衛生管理上も必須な糞尿処理の在り方や、環境に配慮した畜産排泄物の処理方法について学ぶ。				
13	畜産施設管理	暑熱対策や、舎内で発生するアンモニアなどの換気、家畜や作業者に必要な照明の確保・設置個所の他、ストレスにもつながる騒音軽減など、施設管理について学ぶ。				
14	牛群検定データ	データをもとにした飼料給与方法の改善、衛生・繁殖管理など生産全般に係るチェックを行う手法について学ぶ。				
15	アニマルウェルフェア	家畜の快適性に配慮した飼養管理などに考慮することで、家畜が健康であることによる畜産物の安全性・生産性確保に繋がることなどを学ぶ。				
授業準備(予習・復習)の具体的な内容及び、それに必要な時間	【予習】	農作業初心者を想定し指導するので、特に予習は必要としない。				
	【復習】	各回の実習内容でわからないことがあれば、次回の実習までに各担当教員に質問をするなど、早めの解決を心掛けること。				
成績評価	方法	<input type="checkbox"/> 定期試験(%) <input type="checkbox"/> 実技試験(%) <input checked="" type="checkbox"/> 実習・演習評価(%) <input type="checkbox"/> 小テスト(%) <input checked="" type="checkbox"/> 平常点(%) <input checked="" type="checkbox"/> レポート(%) <input type="checkbox"/> その他(%)				
	基準・備考	学生便覧 学則、成績考査規程に準拠して評価する。一読すること。				
使用教材	教科書	特に指定しない				
	参考書等	畜産実習の手引き 鯉淵学園				
教員からのアドバイス・備考	5S(整理・整頓・清潔・清掃・躰)に、積極的に取り組むことも、より充実した実習を行う上で必要なことです。互いに意識的に5S活動しましょう。					